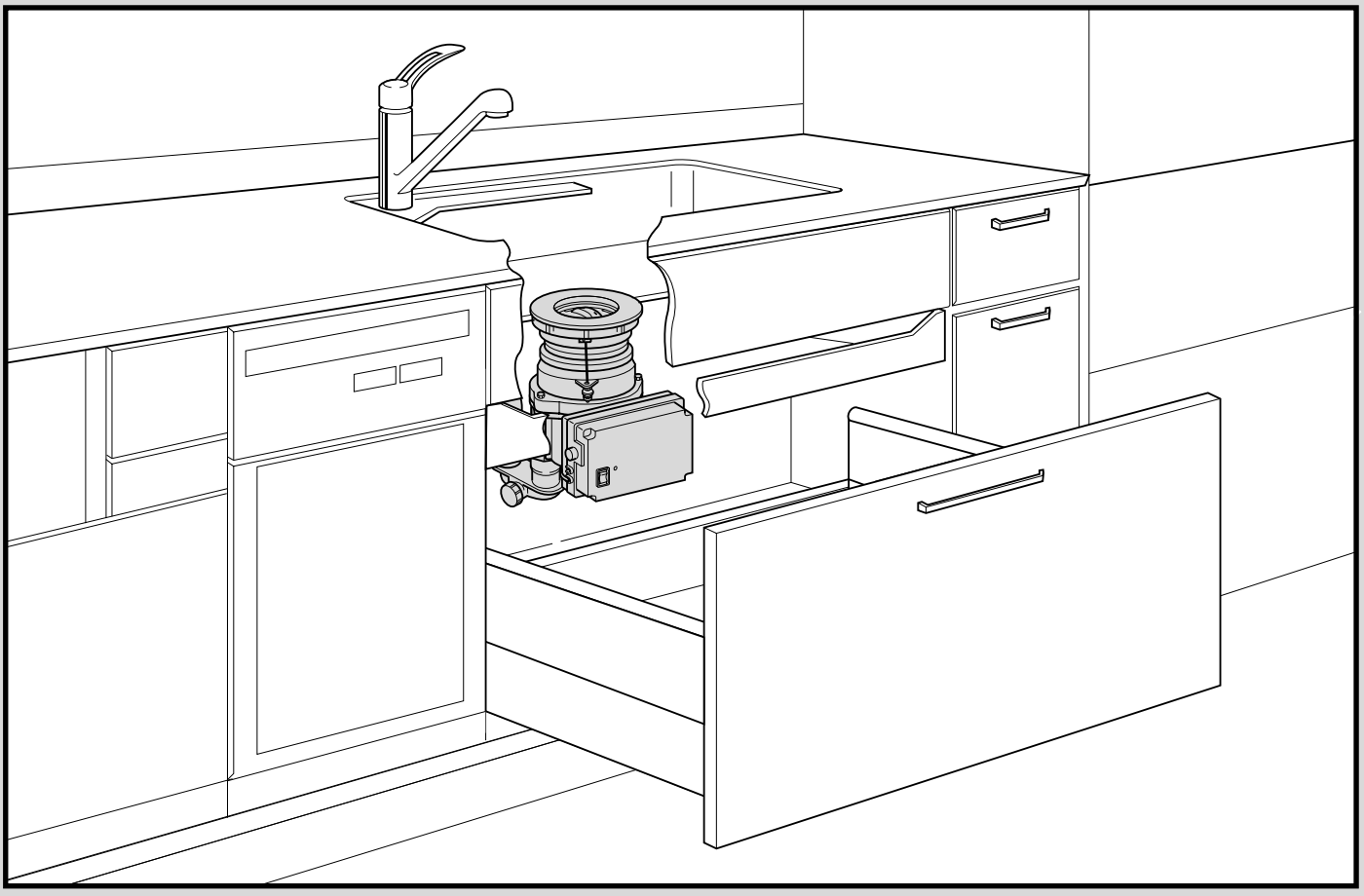
Panasonic®

工事説明書

ディスポーザー 家庭用 屋内設置専用

品番 KD-132



もくじ

安全上のご注意 2
部材一覧 5
工具一覧 6
工事の前に 7
電源コンセントの取り付け 9
本体の取り付け・固定 10
制御ボックスの結線 12
排出管の取り付け 14
試　運　転 15

ディスポーザー単独での使用はできません。当社指定の処理槽と一緒に使用してください。

- 本機は第三者認証機関による適合評価認定取得品です。認定内容に従い工事（配管など）を行ってください。
- 本機は水抜きタイプではありませんので、寒冷地区で凍結の恐れのある場合は使用できません。
- 工事後、この工事説明書は取扱説明書と一緒に、必ずお客様にお渡しください。
- 正しい設置および正しく使用されなかった場合の製品の故障および事故について、当社は責任を負いませんのであらかじめご了承ください。

安全上のご注意　必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■ **表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。**

⚠ **警告**	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠ **注意**	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■ **お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。**（下記は絵表示の一例です。）

	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠ 警告

設置工事は、設置専門業者または指定業者が行う

誤った設置工事や移設工事は、火災・感電・水漏れの原因になります。

コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、交流100 V以外での使用はしない

禁　止

たこ足配線などで、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

電気工事・配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従い、安全、確実に行う

誤った電気工事・配線工事は感電や火災の原因になります。

● 電気・配線工事は、電気工事士の方が行ってください。

設置・配管工事は、現場の設置図および工事説明書に従い、必ず付属の部品を使って確実に行う

強度不足や取り付けが不完全な場合は、本体の落下などによるけがや、火災・感電・水漏れなどの原因になります。

アース線は必ず接続する　[D種接地工事（旧第3種接地工事）]

アース線を接続しないと、万一の故障や漏電のとき感電の原因になります。
（アース線の取り付けは、法律で義務付けられています。）

アース線接続

● アース工事は、電気設備技術基準に基づいて電気工事士の方が行ってください。（法令で規定されています。）

⚠ 警告

壁に穴をあけるときや、電源コードを固定するときは、屋内配線・屋内配管を傷つけない

禁　止

漏電・感電・火災の原因になります。

アース線の接続は、必ず漏電しゃ断器付プラグをコンセントから抜いて行う

感電の原因になります。

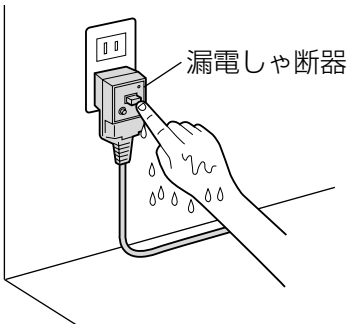
アース線はガス管、水道管、避雷針、電話線には絶対に接続しない

禁　止

爆発・感電の原因になります。

ぬれた手で、漏電しゃ断器付プラグの抜き差しや、漏電しゃ断器の操作をしない

ぬれ手禁止



感電の原因になります。

ぬれた手で電源スイッチを操作しない

ぬれ手禁止

感電の原因になります。

電源コードをステープル（⊓）などで固定しない

禁　止

電源コードが破損して、ショートし
感電・火災の原因になります。

電源コードは途中で切断したり、接続して延長しない

禁　止

火災・感電の原因になります。

制御ボックスのカバーは、結線後必ず取り付ける

カバーを取り付けていないと、触ったときに感電の原因になります。

本体や制御ボックスをぬらさない

水ぬれ禁止

漏電・感電の原因になります。

設置終了後は、設置・配線工事が確実にできているか確認する

設置が不完全な場合は、本体の落下などによるけがや、火災・感電・水漏れなどの原因になります。

安全上のご注意　必ずお守りください

⚠ 注意

工事の際は、床に毛布などを敷く

毛布などを敷いていないと床にキズが入り、補償問題になることがあります。

工事の際に、排出管内に布きれ、配管くずなどを残さない

禁　止

排出管内に布きれ、配管くずなどがあると、配管内が詰まり、水漏れの原因になることがあります。

工事後は、金属片やタイル片などをきれいに取り除く

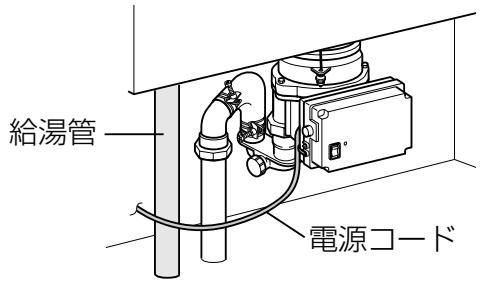
踏んで、けがの原因になることがあります。

通水後は、必ず各部の水漏れ確認をする

水が漏れると、周囲が水びたしになり、大きな補償問題になることがあります。

電源コードは、給湯管などの高熱になるものに近づけない

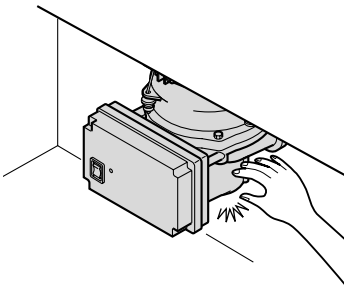
禁　止



電源コードが加熱され破損し、火災・感電の原因になることがあります。

モーターに直接手を触れない

接触禁止



高温になっている場合があり、やけどの原因になることがあります。

異物を取り除くときは、電源スイッチを必ず「切」にし、運転が止まっていることを確認する

破砕部内の破砕刃などで手にけがをする原因になることがあります。

- 厚手の手袋などを着用して行ってください。
- 異物を取り除いた後は、電源スイッチを「入」にしてください。

ため水を流すときは、絶対に運転しない

禁　止

運転中に本体やシンクが大きく振動し、本体が落ちて、けがや流し台内部破損・水漏れの原因になることがあります。

シンクに、連続して60 ℃以上の温水を流さない

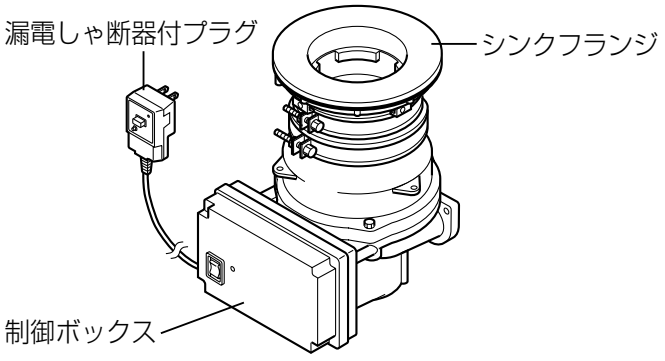
禁　止

排出管の変形や劣化が発生し、水漏れの原因になることがあります。

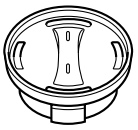
部材一覧 （工事の前に、必ず確認してください。）

本　体（1台）〔シンクフランジ1個付〕

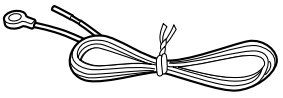
● **シンクフランジは、本体から取りはずして梱包しています。**



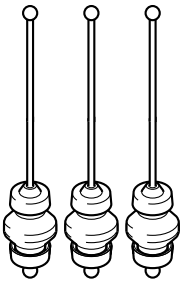
フ タ（フタスイッチ）（1個）



アース線（1本）



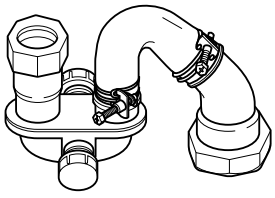
つり金具（3個）〔ゴムブッシュ付〕



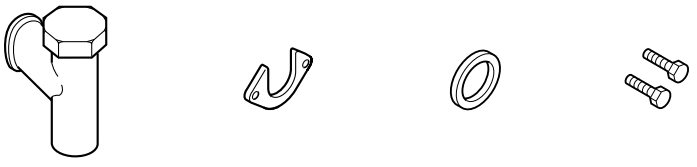
■ 別売部材：排出管（Sトラップ）〔14ページ参照〕

品番：AD-GUC39〔パナソニック電工ホームエンジニアリング株式会社 システム部材開発センター扱い〕

排 出 管



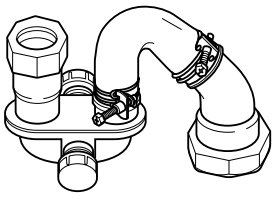
排出管継手セット〔押さえ金具・パッキン・ボルト2本付〕



排出管継手　押さえ金具　パッキン　ボルト

品番：AD-GUA39〔パナソニック電工ホームエンジニアリング株式会社 システム部材開発センター扱い〕

排 出 管



排出管継手セット〔フランジ・パッキン・ボルト2本付〕

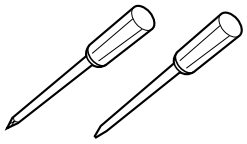
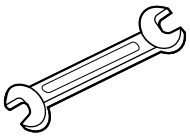
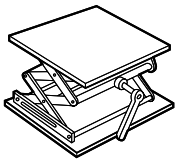
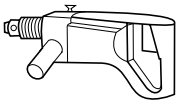
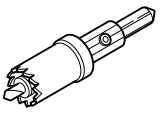
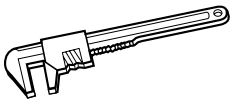
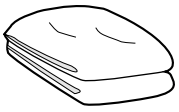
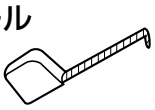
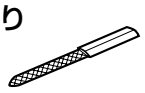
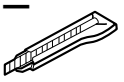
排出管継手　フランジ　パッキン　ボルト

ポケット付シンクの場合

● **上記 別売部材 AD-GUC39をお使いください。**
また、別売部品の「ポケット排水ホース」が別途必要です。
※取り付けは、別売部品に付属している説明書に従い正しく行ってください。

工具一覧

● **工事に際しては、次の工具が必要です。**（付属ではありません。）

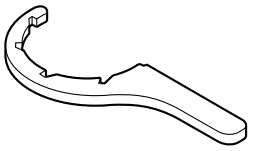
<table>
<tr>
<td>⊕、⊖ドライバー
  </td>
<td>スパナー（10 mm）
  </td>
<td>ジャッキ
  </td>
<td colspan="2">電動ドリル　　ホールソー
  
● 流し台に排水配管用の穴をあける際に使用します。</td>
</tr>
<tr>
<td>モーターレンチ
  </td>
<td>ウエス、毛布など
  </td>
<td>スケール
  </td>
<td>引き廻しノコ
 </td>
<td>塩ビ用ノコ
 </td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>塩ビ用接着剤</td>
<td>やすり
  </td>
<td>カッター
  </td>
</tr>
</table>

■ 別売工具

リング締付工具　※ 10ページ参照

品番：AD-KD131K

● パナソニック電工ホームエンジニアリング株式会社
システム部材開発センター扱い

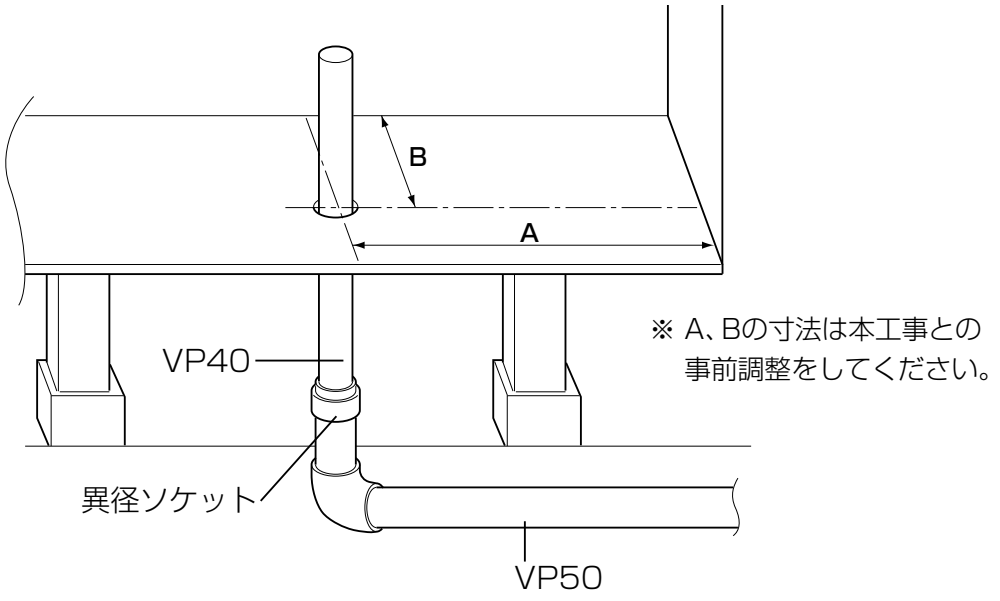


工事の前に

工事については、必ず本体設備工事の係員の方と打ち合わせを行い、設置図に従って行ってください。（係員の指示通りに工事しなかった場合、やり直しになることがあります。）

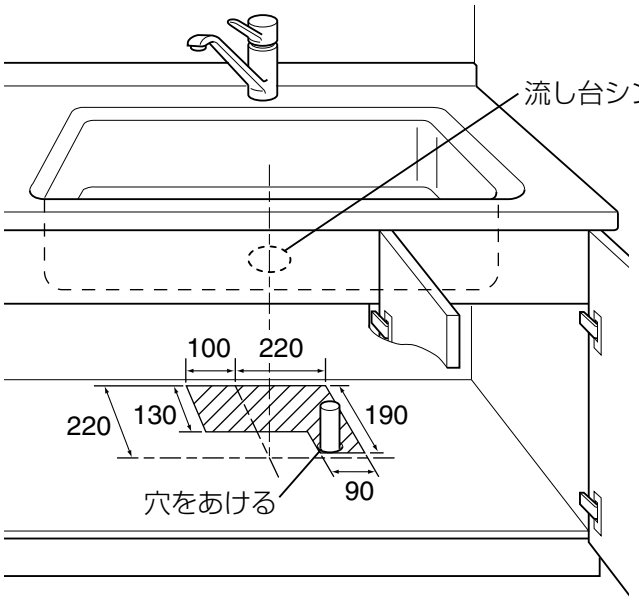
1 流し台設置場所の床から立上がっている排水配管（VP40）の位置を確認する

- 流し台の機種により、床からのVP40立上げ位置が異なりますので、本工事との事前調整が必要です。詳細については、本体設備工事側に問い合わせてください。



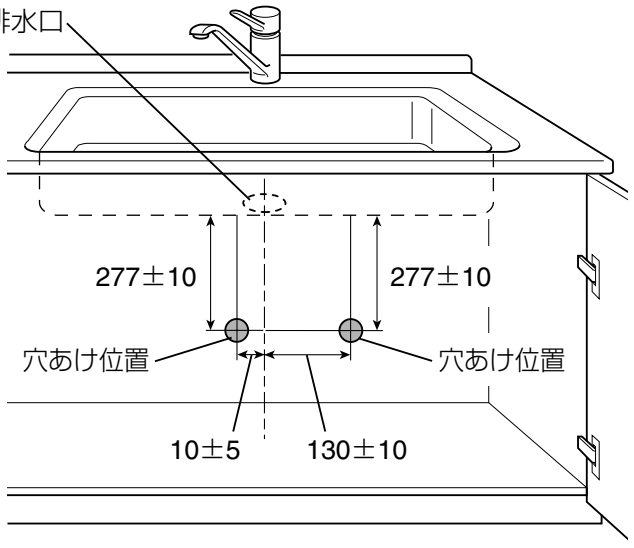
2 排水配管の位置に合わせて、流し台底板にVP40が通る穴をあけ、流し台を所定の位置に据え付ける

- VP40の立上げ位置は、下図の斜線部分の範囲内となります。
- 穴は、ホールソーなどを使用して、あけてください。



（単位：mm）

流し台背面側に排水する場合

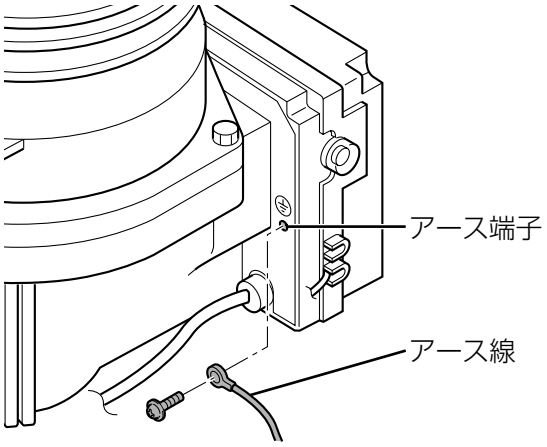


（単位：mm）

工事の前に（つづき）

■ アース線の取り付け

制御ボックス背面のアース端子に、アース線（付属品）を取り付けてください。

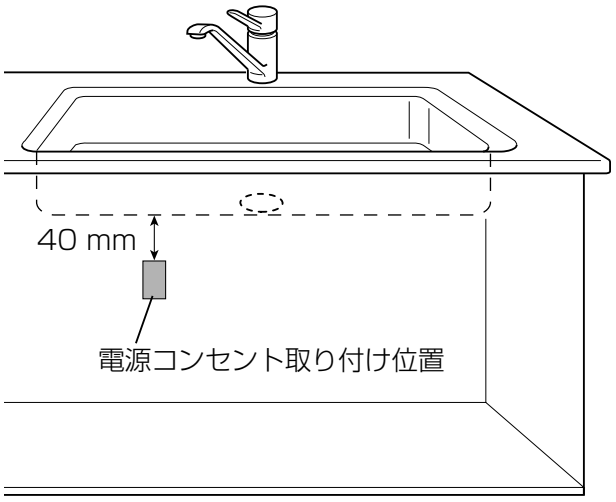


電源コンセントの取り付け

● **ディスポーザー専用の電源コンセントを、電源コードが届く範囲内に取り付けてください。**
（電源コードの長さ：1.25 m）

電源コンセント　**パナソニック電工（株）製**
品番：WN1431 同等品
（アースターミナル付きコンセント 15 A）

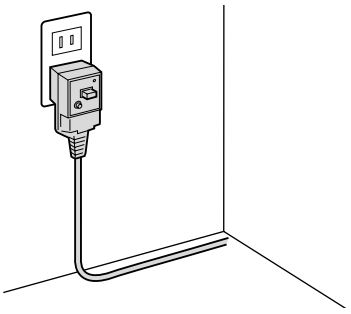
（例）



● 左のイラストの高さに取り付ける

お 願 い

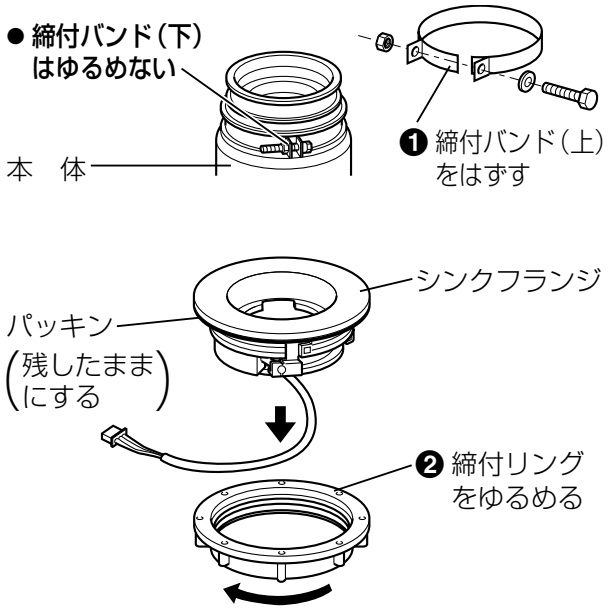
- **漏電しゃ断器の点検ができる位置に取り付けてください。**
- **コンセントに差し込んだとき、漏電しゃ断器付プラグが縦向き（右図参照）になるように取り付けてください。**



本体の取り付け・固定

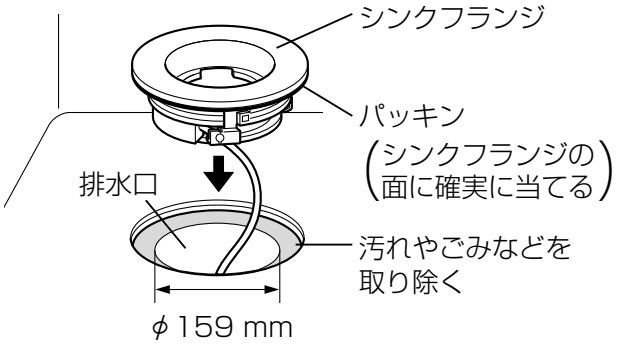
シンクフランジ・排出管継手の取り付け

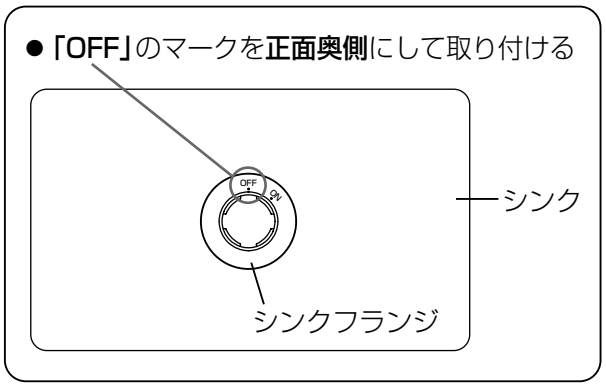
1 本体から締付バンドをはずし、シンクフランジ部分を分解する



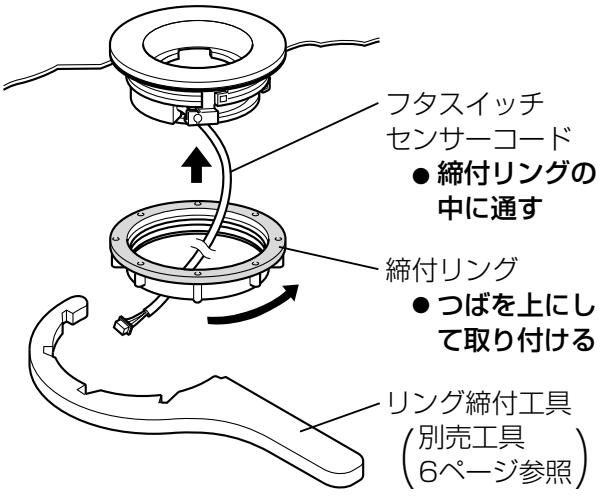
- フタは、取りはずしてください。
- 分解した部品は、なくさないようにしてください。

2 シンクフランジを流し台シンク排水口に取り付ける



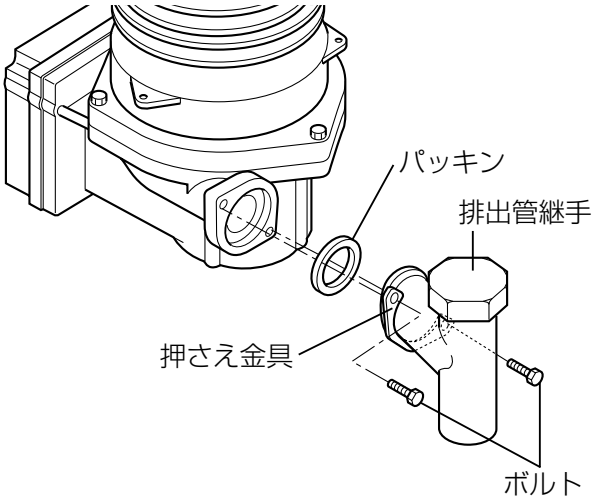


3 締付リングで、シンクフランジを固定する



- リング締付工具を使い、締付リングを確実に締め付け、固定してください。
  （締め付けが不十分な場合は、水漏れの原因になります。）
- 「OFF」のマークがシンクの正面奥側にあることを確認してください。（左記「手順2」参照）

4 本体に排出管継手を取り付ける



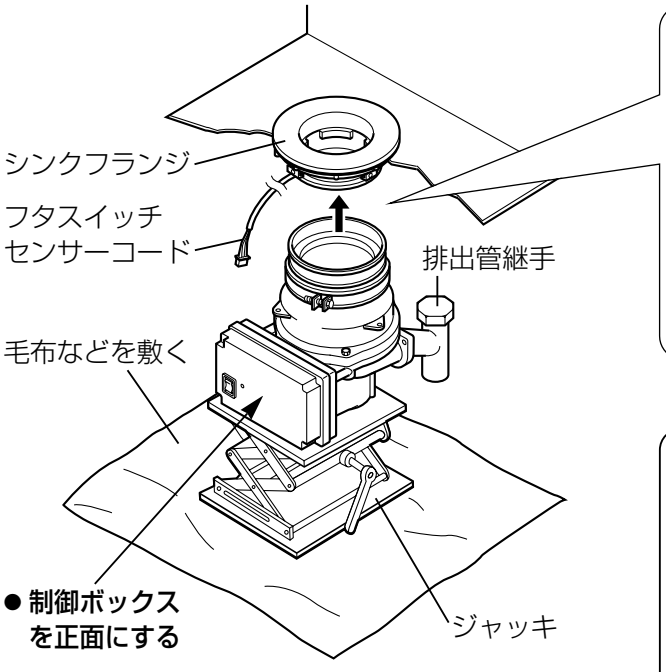
お願い

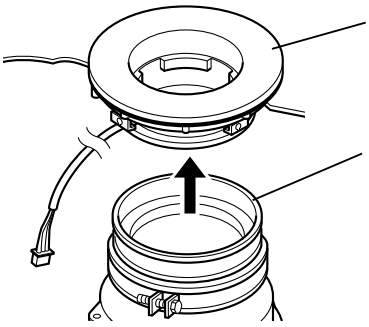
- 排出管継手は、必ず別売部材「排出管」品番：AD-GUC39またはAD-GUA39をご使用ください。（5ページ参照）
  （上記以外の配管部材を使用すると、臭いや、水漏れの原因になります。）

本体の取り付け・固定

5 流し台の下から本体をジャッキで押し上げ、制御ボックスを正面にして取り付ける

- 流し台の底板にキズがつかないように、毛布などを敷いて行ってください。
- 流し台の底板が弱い場合は、厚い板を敷くなどして底板を補強してください。
- 現場の設計図により、排出管継手の向きを確認してください。
- 自動車用の小型ジャッキ（パンタグラフ式）も利用できます。
  （本体がぐらつきますので、落ちないように支えてください。）





⚠ 注意

本体取り付けの際に接続ゴムの内側に油をつけない

禁 止

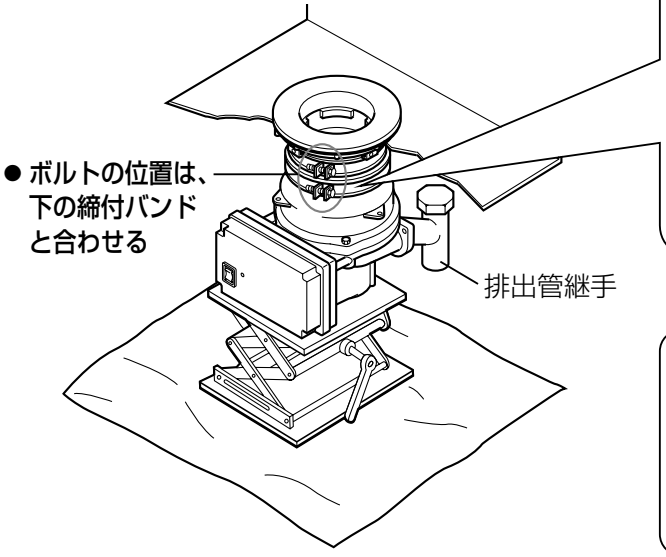
油をつけると、運転中に本体が落下し、けがや流し台内部の破損・水漏れの原因になることがあります。

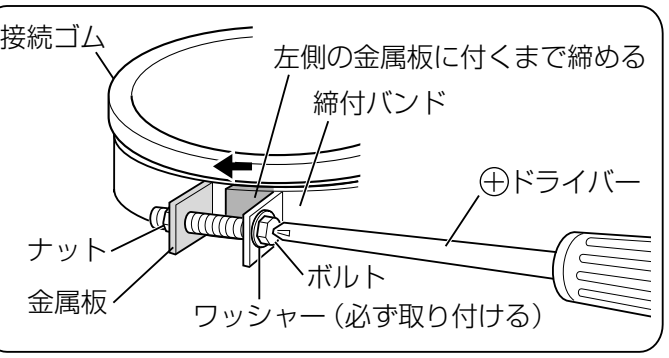
お 願 い

- **フタスイッチセンサーコードを引っ張ったり、力を加えたりしないでください。**
  （センサーコードが傷つき、誤動作の原因になります。）

6 接続ゴムの上から、締付バンドを十分に締め付け、本体を固定する

- 排出管の取り付け（14ページ）を考慮して、排出管継手の位置を決めてから本体を固定してください。





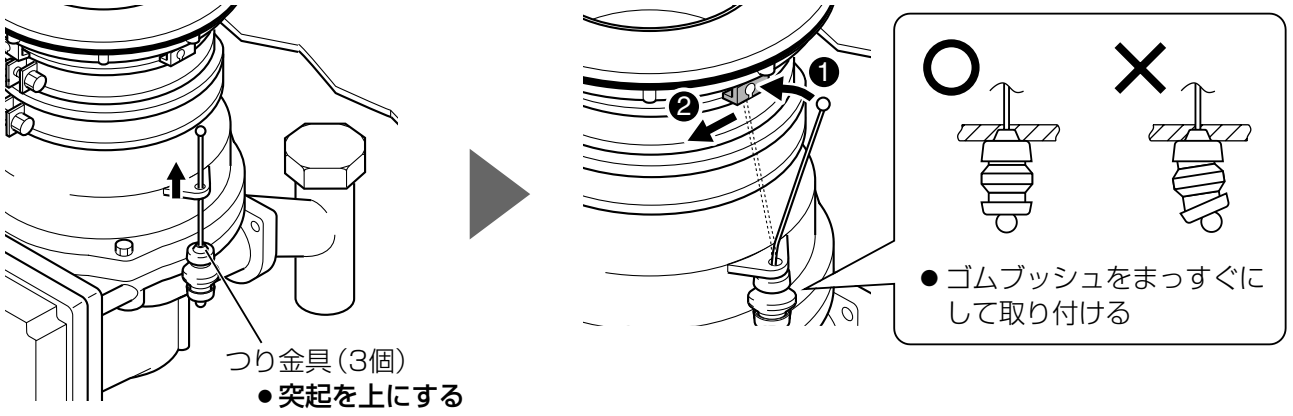
⚠ 注意

締付バンドは十分に締め付ける

本体が落下し、けがや流し台内部の破損・水漏れの原因になることがあります。

本体の取り付け・固定（つづき）

7 つり金具を取り付ける（3か所）

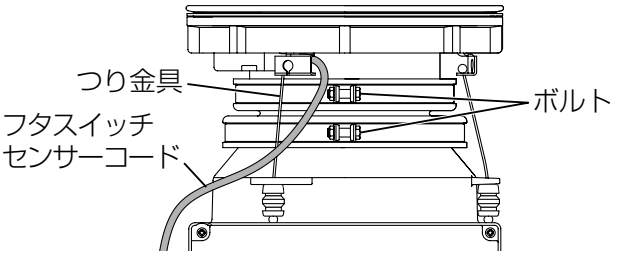


8 ジャッキをはずす

●取り付け後、本体を手で押すと多少動きます。

お 願 い

- **フタスイッチセンサーコードは、右図のようにつり金具の外側に引き回してください。また、締付バンドのボルトに接触しないようにしてください。**
（コードが破損する原因になります。）



制御ボックスの結線

⚠ 警告

■ アース線は必ず接続する　[D種接地工事（旧第3種接地工事）]

アース線接続

アース線を接続しないと、万一の故障や漏電のとき感電の原因になります。
（アース線の取り付けは、法律で義務付けられています。）

●アース工事は、電気設備技術基準に基づいて電気工事士の方が行ってください。（法令で規定されています。）

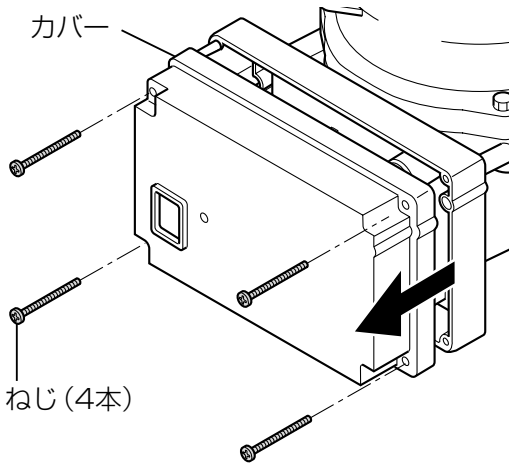
■ アース線の接続は、必ず漏電しゃ断器付プラグをコンセントから抜いて行う

感電の原因になります。

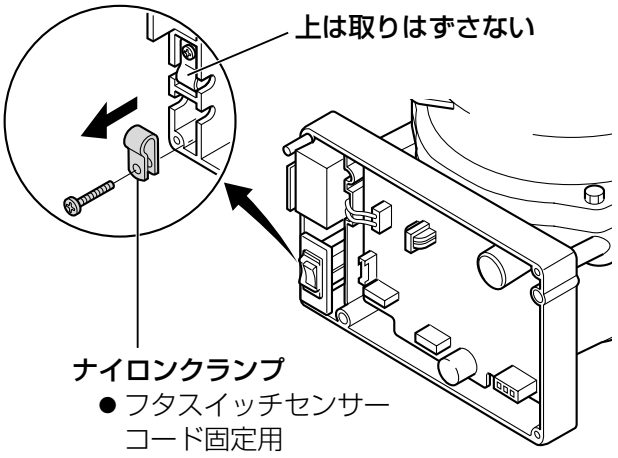
制御ボックスの結線

1 カバーを取りはずす

● ねじ（4本）を取りはずしてください。

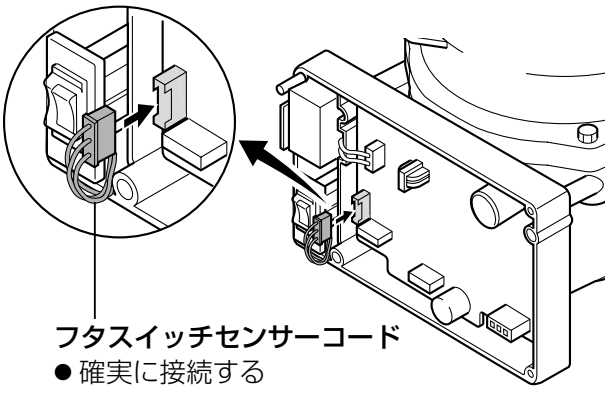


2 ナイロンクランプを取りはずす

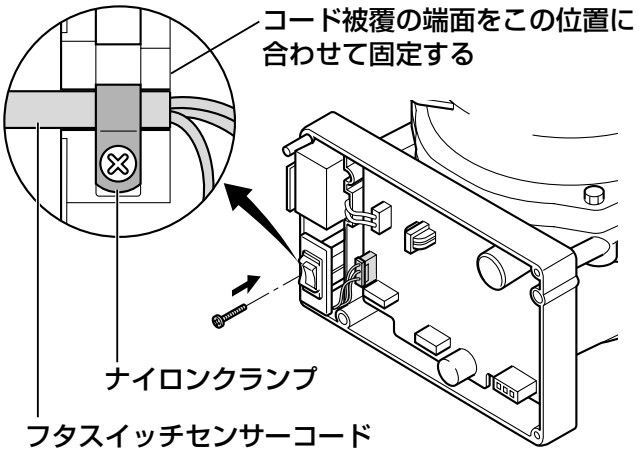


3 フタスイッチセンサーコードを接続する

● 制御ボックスのカバー内面の、結線図に従って接続してください。

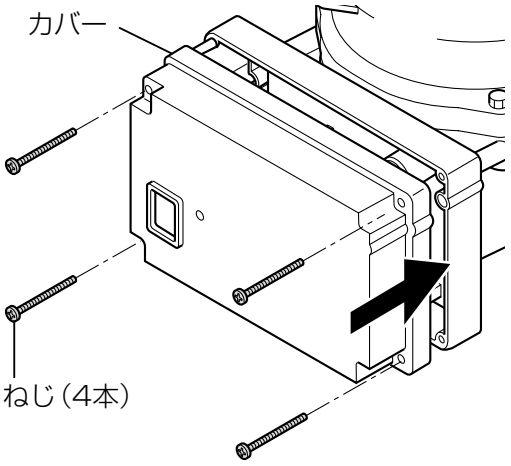


4 フタスイッチセンサーコードを、ナイロンクランプで固定する



5 カバーを取り付ける

● ねじ（4本）で確実に取り付けてください。

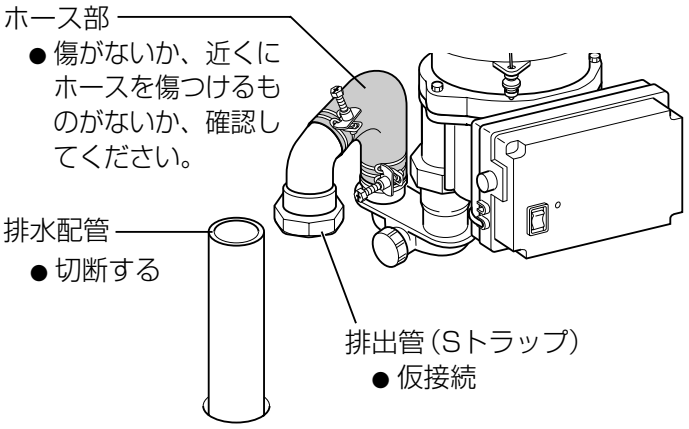


お 願 い

● **モーター回転中に、コネクターを抜かないでください。**（故障の原因になります。）

排出管の取り付け

1 排出管（Sトラップ）を仮接続し、流し台底板から立上がっている排水配管（VP40）を、排出管との接続に合った高さで切断する

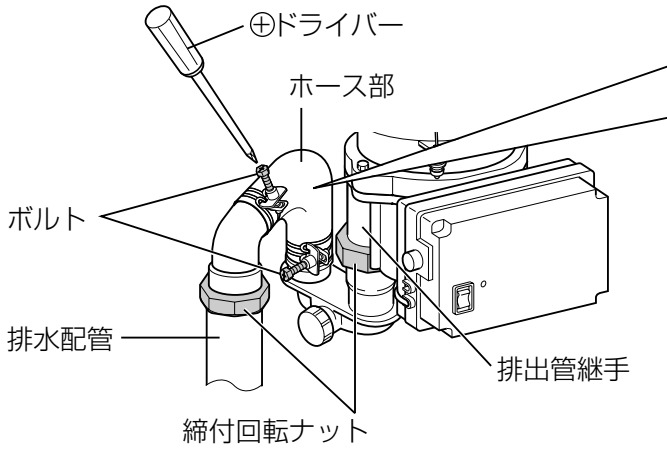


お 願 い

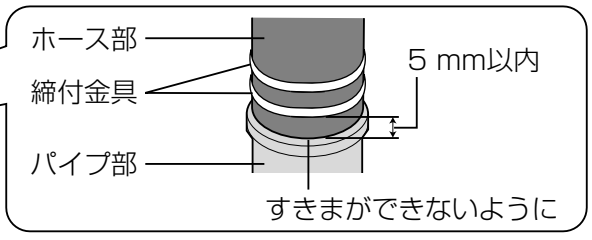
- **排出管継手は、必ず別売部材「排出管」品番：AD-GUC39またはAD-GUA39をご使用ください。**（5ページ参照）
  （上記以外の配管部材を使用すると、臭いや、水漏れの原因になります。）
- **本体が傾かないように、接続してください。**

2 排出管を排出管継手、排水配管（VP40）に接続する

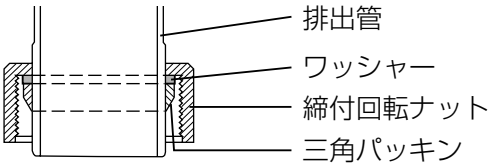
- 締付回転ナット（2か所）と、締付金具のボルト（2本）を確実に締め付けてください。
- ホース部に、ねじれ・つぶれがないように接続してください。



- **まっすぐに締め付けてください。**
  （ななめに締め付けるとねじ山がつぶれ、水漏れの原因になることがあります。）

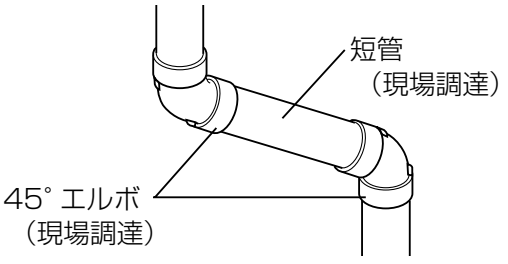


三角パッキンが、下図と同じ向きに取り付けられているか確認してください。



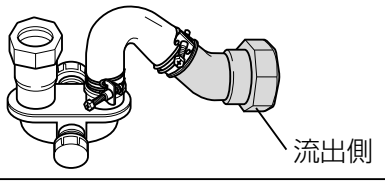
お 願 い

- **本体が傾かないように、接続してください。**
  （つり金具がはずれ、異常な振動の原因になります。）
- **排出管と排水配管が大きく芯ずれしている場合は、右図のように短管と45° エルボ（現場調達）を使って、排出管と排水配管を接続してください。**



お知らせ

排水配管を壁側から配管している場合には、
排出管の流出側を右図のように回してください。



試　運　転

● 試運転の前に、排水管の取り付け接続部の確認、電気工事および水道工事が終了しているか確認してください。

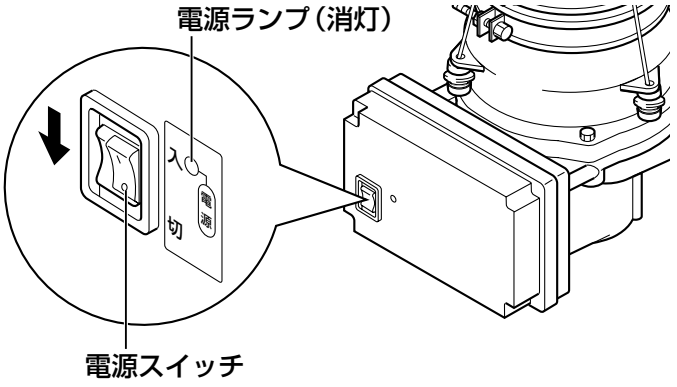
⚠ 警告

設置終了後は、設置・配線工事が確実にできているか確認する

設置が不完全な場合は、本体の落下などによるけがや、火災・感電・水漏れなどの原因になります。

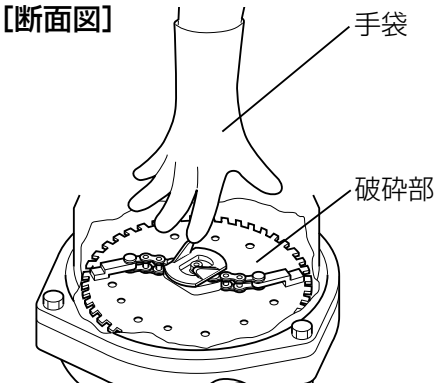
1 電源スイッチを「切」にする

2 漏電しゃ断器付プラグをコンセントに差し込む



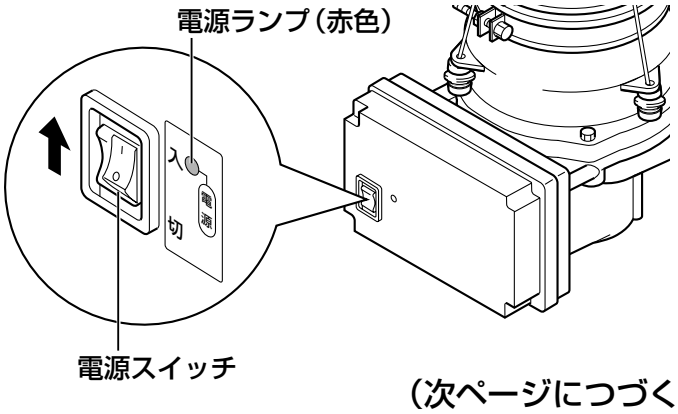
3 破砕部に異物が入っていないことを確認する

● 厚手の手袋などを着用して確認し、異物が入っているときは取り除いてください。



4 電源スイッチを「入」にする

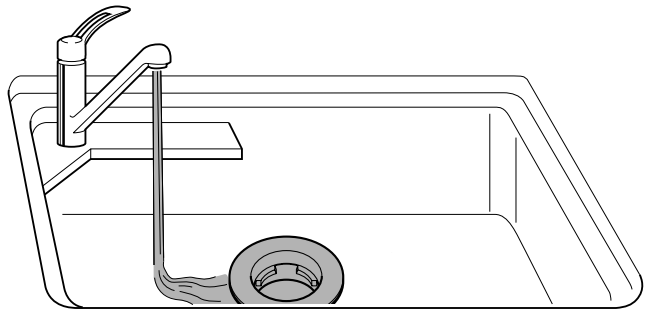
● 電源ランプが点灯し、ブザーが「ピッ」と鳴る



（次ページにつづく）

試　運　転（つづき）

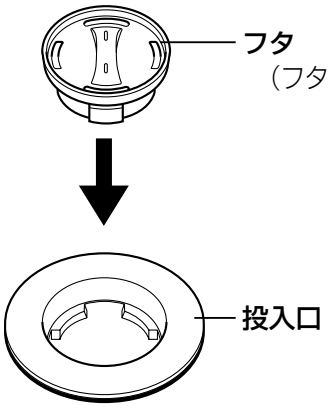
5 水栓を開き、小指ほどの太さの水（毎分約8リットル）をシンクに流す



お 願 い

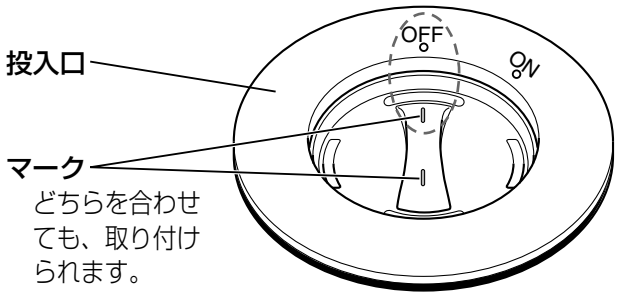
- **必ず水を流してください。**
  （水を流さないで運転すると、本体内部の部品が摩耗する原因になります。）

6 投入口にフタをする



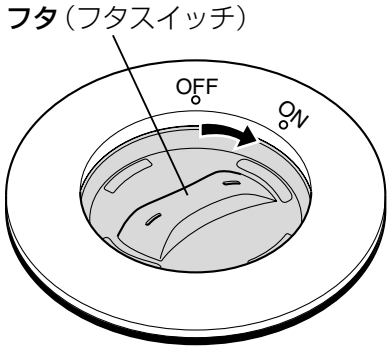
フタの取り付けかた

- フタの**「マーク」**を**「OFF」**に合わせて取り付けてください。



7 フタスイッチを「ON」にし、動作・水漏れを確認する

（ブザーが「ピッ」と鳴り、破砕がはじまる）



確認事項

- **本体が運転し、約1分後に自動停止してブザーが「ピー」と鳴るか確認する**
- **運転中にフタをはずし、運転が止まりブザーが「ピー」と鳴るか確認する**
- **運転中に異常音、異常振動などがないか確認する**
- **漏電しゃ断器の動作を確認する**
- **各部の水漏れがないか十分確認する**

8 水栓を閉め、電源スイッチを「切」にする

- 試運転が終わったら、フタスイッチは「OFF」の位置に戻してください。

パナソニック電工株式会社　アクア・デバイス事業部

〒522−8520　滋賀県彦根市岡町33番地

© Panasonic Electric Works Co., Ltd. 2008

ZKJ0D1320E　S1003T6108 Ⓓ